

分野別 分析表

分類A：不利益取り扱い
 分類B：合理的配慮の欠如

(浜家連 差別事例アンケート)

分野： ⑦ 教育

分類区分	分類内容	件数	共通分類		事例	コメント	対策
			A	B			
701	入学、進学、修学旅行等で、学校が精神障害者を排除するような対応をした。合理的配慮欠如。	5	3	5	<ul style="list-style-type: none"> ・高校のクラスの担任が、通院している病院を聞きだし、「勉強できる状態なのか？そうでなければ退学させたい。お医者からもすすめてほしい」と医者にせまったらしい。 ・高校進学の際、各校のオリエンテーションへ参加したが、担当の中学教師へ相談してくれ、と実質上進学拒否された。軽度の統合失調症であったが、本人の失望は大きかった。 ・私立高校で、修学旅行は遠慮してほしいと言われた。 	小、中、高等学校で進学、受験、修学旅行などでの参加拒否や、転校を進められるなどの合理的な配慮に欠ける差別の訴えである。	学校関係者や教師は精神障害者について学び理解を深めるべきで、行政はその教育を受ける機会を作る必要がある。また、それぞれの場面でどうすべきかは、精神障害者とその家族の意志を尊重して対応すべきである。
702	いじめや不登校への学校の対応が適切でないため、それも一因で精神障害を発症。教育現場での合理的配慮欠如。	4	3	4	<ul style="list-style-type: none"> ・子供が小2の時、転校でいじめを受け、それがエスカレートするので担任の先生にも相談しました。先生は「生徒に注意すると返っていじめの的になってしまう」との理由で何もしてくれなかった。その後、統合失調症を発病致しました。（この時期私自身も自分を責めていた） 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校で虐待ともいえる「いじめ」を受け、それが統合失調症等の精神障害を発症する契機とも思えるストレス環境となった。「いじめ」を受けた時に教師に訴えたが、適切な対応をしてくれなかったという回答である。いじめは個人の人格までも否定する差別を伴うことが多い。 	「いじめ」の問題は社会的にも大きな問題になっており、解決は困難ではあるが、少なくとも教師は対応するためのいくつかのノウハウを持つべきであり、それを教育する機関を作るべきである。また、訴えがあつ時には勇気をもって、真摯に対応すべきである。校外の相談機関を設けるなどの対策も必要か。
703	学校教育の中で精神障害に関する知識を教えるカリキュラムがない。制度の不備。	4		4	<ul style="list-style-type: none"> ・精神障害について、学校で教えてほしい。知識がないため、本人も家族も対処の仕方が解らず、時間がたち重症化してしまう場合がある。 ・精神障害者に対する理解を深めるために、小学校5～6年の頃から、病について学びPTA等へ広く啓発し、中、高生の心の動きに注意を払い、特に年齢16歳の思春期頃を重点的に教職者、両親は学ぶ必要があると思います。 	精神障害についての認識や知識がないため、一般の人々は、偏見を持ったり、恐怖や薄気味悪さを感じてしまったり、どのような対応や接し方をしたらよいか戸惑う。学校教育の中に精神障害の授業がないのは合理的配慮の欠如の差別である。	障害が見えにくい精神障害者に対する差別をなくすためには、精神疾患の知識を持ち、障害の特性を理解することが不可欠である。精神疾患が思春期に発症することが多いことから小、中、高校の学校教育の中に精神障害についての教育を取り入れるべきである。
704	学校で教師や同級生から差別的言動を受けた。偏見による差別。	3		3	<ul style="list-style-type: none"> ・子供が統合失調症と診断されたら「妹さんが結婚する時に、兄の病気が結婚の妨げになるだろう」と言われた。学校長との面談でした。親は考えもしなかった事を教育者から言われてショックでした。 ・中学校のとき、友達たちが本人の陰で「キチガイ」と言っているのを聞いたことがある。 	学校内での差別的言動の訴えである。学校長の無理解な同情の言葉や、差別的な意味合いをもっている言葉が非公然と悪意で使われるなど、差別そのものである。	その場で注意や抗議をすることが一番と思うが、それが難しい状況が多い。長い時間を要するが、抗議活動や教育、啓蒙活動を通して、社会的に精神障害者に対する差別をなくす風土を作り上げていくことが必要である。

区分	分類内容	件数	A	B	事 例	コメント	対 策
705	精神障害への偏見のため、当事者は息をひそめて無理解に耐えながら暮らしている。偏見による差別。支援制度の不備。	1		1	・病気と本人との対応で心身共に疲れ果てているのに「偏見」のためにいろんな面でじっと耐え息をひそめて暮らしている方々が近所にも数名います。我家の本人が18才頃「養護学校」のスクールバスを見てあの人達はいいな～と云ったことがありました。誰にも理解してもらえず一人苦しんでいたんだなど今頃わかりました。訪問介護など早急にやっていただきたい。	社会の偏見や差別により、押しつぶされそうな状況を訴える回答である。	PSWなど精神福祉にかかわるマンパワーを充実させて「じっと耐え息をひそめて暮らしている」人達を訪問し、普通に外に出られるようにサポートする体制を作ることが必要である。
706	大学では精神障害者に対する十分なフォローがない。合理的配慮の欠如。	1		1	・大学では十分なフォローがなく、一般学生と同一の扱いを受ける。	具体的な内容が書かれていないので推測するしかないが、高等教育の場でも精神障害者に対する配慮を求める訴えである。	高等教育の場でどんな合理的配慮が必要か調査した上での対応が望ましい。
799	差別とは断定できない	1					
	合 計	19	6	18			